

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日
		指定年月日	平成14年11月1日
法人名	有限会社 仙口		
事業所名	グループホーム みやまの里		
所在地	(258-0001) 神奈川県足柄上郡松田町寄4 1 6 5		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	6 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpJDetails.aspx?JGNO=ST1471400182&SVCD=320&THNO=14363
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者と職員が一体となって明るい家庭的な雰囲気作りを行います。 ・利用者が自分らしくゆっくりと楽しく自由に快適に過ごせるように努めます。 ・利用者の自立への気持ちを大切にし心身機能の維持・回復・増進に努めます。 ・町内会、老人クラブ、小中学校、保育園等の行事への参加を通して地域連携を図り、地域に根付いたグループホームづくりに努めます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年12月14日	評価機関 評価決定日	平成25年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線新松田駅よりバスで約30分の寄バス停から清流の中津川を見ながら10分程歩いた自然に恵まれたところにあります。長年運営している民宿を改装したホームは定員6名で居室は広々とゆったりしています。 <優れている点> 職員は施設長の家族や長年つきあいのある近隣の人たちで日常的にコミュニケーションが図られており、朝食の時からミーティングが始まり、提案や相談など気がねなく話し合いがされ、速やかに決断しています。 事業所は地元の拠点となる場所で寄神社の祭りには神輿が立ち寄り、100人以上の人たちと一緒に豚汁を食べる行事や職員が地元の消防団の中心となっているなど地域に大きな貢献をしています。広い大座敷で行うひな祭りや十五夜には近隣の幼稚園児を招いて親達からも感謝されています。 冬の寒い日には職員が食事を利用者の部屋に運び、利用者の居室に他の利用者也集まり、炬燵で一緒に食事を楽しんでいます。 夏休みには小学生が泊りがけで野球の合宿にきています。利用者も見学したり、話し合ったりして楽しんでいます。 <工夫点> 利用者の要望で施設長自ら犬や猫を買ってきて皆んなの人気者になっています。一人では散歩に出られない利用者也犬となら一人で出かけたり、1日中猫と日向ぼっこをされている利用者もいます。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でその都度考えながら実践につなげています。管理者は生活のリズムを考え乗じ遅れるように心掛けて提示してあります。	豊かな自然環境の中で「利用者と職員が人間愛で結ばれ、安心と尊厳に根ざした明るく豊かな生活を共に創造する」という利用者の毎日の生活リズムを大切に支援しようという新しい理念を施設長やその家族である職員によりつくり、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入・行事への参加等みやまの里には寄神社の大祭典にはお神輿が立ち寄り、100人以上の村の人達と豚汁と一緒に食べ、いつも地域の方々に声をかけてもらっています。	古くから民宿を運営され、地域にとけこんでいます。自治会による道路の掃除や地域の朝市に参加し地域の方たちとは顔見知りで挨拶を交わしています。事業所には昔からの珍しいお雛様などが多くあり、春、秋に近隣の幼稚園児の訪問が行事になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いろいろと地域の方々や認知症の人の方々を交えて支援を活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	松田町役場の職員・自治会長・民生委員の参加。地域の情報交換や自治会の行事への参加や、こちらの情報を伝え合い地域の繋がりを深めています。	運営推進会議には松田町の地域包括支援センターの職員や地域の自治会長、民生委員、事業所の職員全員が参加し、事業所の活動報告や空室状況などの情報や自治会のその期間中の行事の情報など交換しています。避難訓練の参加にも働きかけています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	松田町役場福祉課とは相談、報告等を絶えず行っています。神奈川県福祉事務所や小田原認知症グループホーム連絡会合同研究会に積極的に参加しています。	松田町役場の担当者とはケアサービスの取組みや空室状況など交換し、事業所の運営の安定のため、常に協力関係を築くよう、取り組んでいます。県の福祉事務所への訪問や小田原認知症グループ連絡協議会に積極的に参加し、情報の共有に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は7時30分～20時30分迄オープンにしてあり、いつも出入りは自由にしてあります。指定基準を守り身体拘束は絶対しないケアに取り組んでいます。	利用者は認知症だけでなく、身体的にも重度の障害がある人もおり、職員は身体拘束防止や認知症ケアなどの研修会に参加し、身体拘束による弊害の理解を周知し、多くの工夫を取り入れ、利用者一人ひとりの見守りを重視した支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待など有りません。見過ごすことのないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用出来る様に支援しています。成年後見人の方も月に1回は訪ねてみえ、必要な事は話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類等をしっかり説明し、納得を得て業務を進めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や成年後見人の方と意見や要望等を話し合い、それらを運営に反映させています。	施設長が利用者の家族を訪問したり、成年後見人や生活保護担当者が訪問した時、支援状況を報告すると共に要望や意見を把握し、その後の支援に反映しています。数年前に退去された家族の息子さんが入居されるなど付き合いが継続されています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との話し合いは常にあり、部屋はオープンにしてあり全員の利用者さんと一体になる様必要な品物や不足の物などを話し合い即決定しています。介護の上で気づいた事は全員で共有しています。	職員は施設長の家族や長年つきあいのある近隣の人たちで朝の会話から日常的にコミュニケーションが図られています。ミーティングは家族的な雰囲気の中で毎朝、ケアの送りや要望や意見など交換し、速やかなケアプランの見直しも実現されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件等・各自が向上心を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、実践に向け努力しながら日々進んでいます。なお年に3回は施設での研修を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に何回か、他の施設と交流があり庭でバーベキューでむかえたり、カラオケで楽しんだりしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の考え方、生活の習慣等が分かるまではなるべく一人にはしないで、希望とか要望などを聞きながら慣れるまで過ごしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方には常に連絡をとり安心して お預かり出来る様努め、良い関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の方の性格を見極めてその人らしく楽しい施設であることをキーワードにし、利用を含め対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設で過ごしやすく楽しく日々送れ、家族や友人のように暮らしを共にする物同士の関係を築いています。動物が好きとのことでねこを飼いはじめました。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方や後見人の方との絆を大切に し、支援していく関係を築いています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にして途切れなどないよう支援に努めています。また地域の人達も大切な友人です。買い物等住民の気持ちでいてもらっています。	日々の暮らしの中で利用者の生活習慣や会話の中から行きたい場所を把握するよう努めています。利用者の要望で猫や犬を飼い、犬となら一人で散歩が出来ています。ドライブしながら近隣の温泉に行き、地域の人とのおしゃべりを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日食事・おやつ・テレビ等全員で一緒に行動をし孤立をさけ支えあう様支援に努めています。畑仕事や草取りなども仲良くしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大変うれしいことですが、5年前に退居されたご家族の方々と親戚の様なお付き合いがありいろいろ相談したり訪問して利用者さんにお土産を頂いたりしています。今年はその方の息子さんが入居されました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	現在5名ですが利用者一人一人の共同生活が違っているため、絶えず利用者の様子を観察しながら寄り添い仕草からやりたいことを察し意向の把握に努めています。一人入院中です。	入居時のアセスメントや日々の会話、好きなテレビ番組、繰り返し語る事柄から過去の仕事や趣味を把握しています。庭にあったノコギリやシャベルを見た時や壊れたものを修理している時の表情から今までの仕事を推察したこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員でサービス利用に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に注意をしながら努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の楽しみを見つけ散歩も行きたいときに出かけ、野菜作りも利用者さんの気の向いた時・買い物・外での食事、（天気の良い日等）温泉に行く等プランを作って行います。	利用者一人ひとりが認知症だけでなく重度の身体的な障害があり、必要とされるサービスの内容を医師、看護師、施設長、職員全員でカンファレンスに参加し、介護計画を日常的に見直しています。温泉や外食など現状に即したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報の中に一人一人の様子を職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせて対応し、既存のサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮し、心豊かな暮らしを援助できるよう支援に取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診は必ず受け、年に1回の健康診断を10月に必ず受けています。	近隣の協力医が月2回、訪問看護師が月1回、往診して利用者の健康に気を配っています。利用者の状況に異変がある時は24時間、いつでも駆けつけてくれています。訪問歯科医の受診を開始する予定になっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報はその都度看護師なり先生に24時間連絡がとれるので、適切な看護が出来る様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は先生と相談の上安心して治療を受け、情報交換の関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携・マニュアルに従って家族の方と話し合いながら支援に取り組んでいます。	重度化した場合、本人や家族と相談し、協力医と連携しながら対応をしています。入院が必要な場合は協力医の紹介で入院し、最後までホームで過ごすことを希望する場合は協力医がいつでも駆けつけてくれる体制があり、看取りの実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院・クリニックに応急手当の仕方などを聞きながら定期的実践を身につける様努力をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練は2回、消防署・利用者・職員とで定期的（半年に1回）にしており備蓄も心がけて対応しています。1階が地域の災害避難場所に指定されております。	避難訓練は5月、10月に実施しています。身体に障害がある方の2階からの避難誘導が課題になっています。事業所の1階は民宿で、古くから地域の拠点になっていて、災害時には近隣からの協力が得られる体制があります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する指針を作成し掲示しています。神奈川県に登録をおこなっています。家族と同様に自然体で接し生活支援をしています。	現在3名の利用者が暮らしています。体の不自由な方もおり、一人ひとりが日々、楽しく、落ち着いた生活が出来るように様々に工夫し配慮しています。居室で猫を飼う方、犬と散歩する方など利用者は自由に穏やかに過ごしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常本人の思うままに生活をして頂く、すべては自己決定です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人その人らしく毎日を送っており希望を聞いて外出等は支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの人も、男女に関わらずきれいな色や、新しい物は大喜び。身だしなみには気をつけて支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの物が多くほとんどです。作物づくり・料理を手伝える人は一緒につくり、職員と一緒にわいわいとやられています。食事は全員いつも完食です。	一日の献立の中にごはん・パン・麺類を入れ、変化とバランスを考えた食事が提供されています。野菜は食中毒予防や歯の悪い利用者のために必ず湯通しています。寒い時期、食事は居室の炬燵に皆で集まって、テレビを見ながら和やかに食べています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調にあわせた摂取は支援しています。食べる量・栄養のバランスは毎日考えながら献立しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に対応した口腔ケアをしています。出来ない人には支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立に向けていろいろな形をかえながら一人一人の習慣を活かして、トイレの排泄が出来る様に支援を行っています。	一人ひとり、個別に対応しています。体が不自由で介護度の高い利用者はオムツを使用しています。リハビリパンツの方は食事の後など生活の区切りに声かけしトイレに誘導しています。また便失禁があった場合、その処理の後風呂で入浴し清潔に過ごせるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物、果物と便秘の原因にならないよう予防に取り組んでいます。現在まで便秘で困ったことはなく喜んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯をきめず、個々に応じオムツのタイミングで夜中に入浴をする人もいます。入浴は全員大好きです。リフト浴もあり、利用者に合わせた介助支援をしています。	入浴は基本的に週2回ですが、状況に応じて柔軟に入浴しています。リフト浴で身体が不自由な方も入浴を楽しんでいます。夏場は昼間に入浴し、冬は湯冷めをしないよう就寝前に入浴しています。時々、町の銭湯にも出かけて行き利用者に喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬は敷電気毛布・夏は窓を開け風通しを良くし、窓の開閉に注意しながら良く眠れるように支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には気をつけて確認をしながら、努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が楽しい一日であるように嗜好品は常に変った物や、目先をかえてだしています。利用者さんも楽しみにしてくれています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き外出は車で出かけ、スーパーで買い物をしたり（花見・ドライブ・温泉）家族の方が連れて行かれたり、地域の土曜市には必ず行ったりしています。	利用者はそれぞれに里山の散歩を楽しんでいます。毎日3回一人で散歩する方・犬と散歩する方・職員の肩にたかまって散歩する方などです。町場には買い物のついでに散髪したり、レストランに寄ったり、利用者は順番に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや、自動販売機での買い物を楽しんでもらえます。常に利用者さんの側について支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事の写真を飾り、大広間には季節の飾り物や・つるし雛など生活感や季節感を取り入れ、花などを活けて常に工夫をしています。	1階は民宿部分ですが、利用者は庭で草むしりをしたり、自由に動いています。玄関や食堂には季節の飾り物やたくさんの花が飾られて、季節の訪れが感じられます。2階の談話室は家庭のリビング風で面会時やおやつの時間に使われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の部屋へは自由に行き来しています。食事・テレビ等はいつも一緒に、部屋も代わりかわりに工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人の部屋が11帖以上ありますので家族の方がゆっくり過ごして行かれ、本人の調度品や馴染みのものも運び込まれています。時には宿泊もされます。	居室は利用者の状況に合わせて、職員が様々に配慮し、居心地良く、安全に暮らせるよう工夫しています。居室の炬燵に利用者2人で入り、そばには利用者の希望で飼った猫2匹と寛いでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由な生活をされています。安全な環境をつくる事を常に心掛け、自立支援を行っております。		

(別紙4 (2))

事業所名 グループホーム みやまの里

目標達成計画

作成日： 平成25年6月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者の数が少なく、満室に成ると云う事がないのが現状で、経営上大変むずかしいので。	2、3ヶ月中には、入居者の方をさがしていきたいと思っています。	市町村には手紙やファックスでおねがいしています。ケアマネさんには名刺等で名前を知っているいろいろな所でパンフレットを持ってお願ひしています。	3ヶ月
2		各市町村やケアマネージャーさんに当って事業所も実情やサービス向上に向け努力しています。	松田町や社会福祉協会など報告やおねがいをしています。小田原認知症グループホーム連合会の研修に参加。そのつどお願ひしています。	みやまの里を知って頂ける様努めています。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。